



若手もベテランも活躍中！
子育て世代も多く、男女問わず育児休暇を取得でき、復帰後も時短勤務や子どもの通院などでの休暇取得などに柔軟に対応し、長く活躍できる環境を整備する

建設コンサルタントは、官公庁が道路や橋、下水道・上水道、のり面対策などの「社会資本」と呼ばれるインフラを整備する際に、現地の調査や測量をして設計図を作成し、最適な方法を提案して発注者や施工者を支援する仕事だ。単に測量して図面を描くだけではない。建設や整備に着工する前のすべての土台であり、土地の権利関係を明らかにし、高度な測量技術や企画力、提案力などが総合的に問われる技術者の集まりだ。「地域の皆様が、より安心安全で快適にインフラを利用できるようにする仕事です。建築物のように目には見えにくいものですが、縁の下の力持ちとしてまちづくりを支えています」と語るのは、株式会社ヨナゴ技研コンサルタントの大西幸人社長だ。同社は1971年に測量の会社として始まり、設計の需要の高まりを受けて91年に組織と名称を現在の形に変更した。2000年代初頭からは入札、測量、設計まで担い、現在に至るまで鳥取県内各地で実績を積み重ねている。「特に近年は災害多発社会。復旧や予防によって地域の安心安全を守る我々の仕事も重要性を増しています」と力がこ

もる。創業時は3人だった社員は、今では45人にまで増えた。若手を積極的に採用し、20代、30代が多く活躍している。「大切なことは、より良いまちづくりに興味があり、自分自身も成長したいと思う気持ち。技術は入社後でも十分学べます」と情熱のある人材を採用。異業種からの転職も多く、育成に力を入れる。技術士や測量士、RCCMなどの資格取得にかかる費用を支援。また、「ライフステージが変化しても、それぞれが力を発揮して長く働ける会社になりたい」と福利厚生を整え、有給休暇や育児休業の取得推進のほか、社員それぞれの事情にも柔軟に対応して働きやすい環境づくりに取り組む。ハード面では、三次元測量機器やレーザー、ドローン、BIM/CIMなど、時代にマッチした最新機器や技術を積極的に導入している。ICT化による業務効率化や生産性向上を図るとともに、チームプレーでより良いまちづくりに挑む。「創業から50年を経て、次に目指すのは100年。技術の継承は一朝一夕にできるものではなく、若い力を丁寧に育てています。地域を良くしたい、安心安全なまちを一緒につくりていきたいと思います」と地域の未来をこももにつくる人材を求めている。

**安心安全で便利な
地域をつくるために**

株式会社 ヨナゴ技研コンサルタント

● 建設コンサルタント



**工事の土台となる
“レシピ”をつくる**

“公共工事のレシピ”をつくるのが建設コンサルタントの仕事。道路や河川、橋梁などインフラの設計計画、地質調査や各種調査を行い、地域のニーズや環境、防災、施工、維持管理など多角的な視点から地域の暮らしを豊かにするための提案を行っている。



**親睦が深まる
BBQや社員旅行**

社員同士の仲の良さも同社の特長。社内レクリエーションでは部署を超えて交流を温めている。25年の社員旅行は春の京阪神。それぞれの事情に合わせて日帰りコースや宿泊コースを楽しんだ。秋は社員の家族も招いて本社駐車場でBBQが恒例行事になっている。



**資格取得を支援し
人材を育てる**

技術力の向上や、幅広い業務を扱う上で資格は重要だ。技術士、RCCM、測量士などの資格取得にかかる受験料や交通費、宿泊代などは全額支援。合格すれば報奨金や資格手当が付与される。未経験からでも丁寧に育成し、プロの技術者として成長を遂げている。



**測量や設計で
最新の技術が活躍中**

測量では、レーザースカナーのほかに、ドローンを使って空中から撮影し、専用ソフトで解析して3次元のデータを構築。山の中や河川、港湾などの測量で活躍中だ。また、BIM/CIMによる3次元モデルを用いた設計にも取り組み、さまざまな最新機器が導入されている。

54
LEADING COMPANY

**ミライをつくる。暮らしを守る。
地域を豊かにするプロ集団**

地域の暮らしを支える道路や橋、上下水道などのインフラ整備。より快適で豊かな暮らしを想像しながら、工事の全体像を描き、土台をつくる建設コンサルタントの会社だ。



株式会社 ヨナゴ技研コンサルタント

創 業 昭和46 (1971) 年5月8日
代表者 代表取締役 大西 幸人
社員数 46名 (男36名 女10名)
本 社 鳥取県米子市彦名町1460-4

事業内容

建設コンサルタント (道路・橋梁・河川・港湾・上下水道等)、測量業、地質調査業、補償コンサルタント

勤務地 (採用エリア)

米子市、鳥取市、倉吉市、境港市

採用区分

新卒採用 キャリア採用

インターンシップ・キャリア

有 随時募集。詳細は下記電話番号までお問い合わせを。

採用担当者からあなたへ

当社は「ミライをつくる。くらしを守る。」をキャッチフレーズとし、官公庁からの委託を受けて公共インフラの測量・調査・設計・維持管理を行っております。専門性の高い業種ですが、基礎から先輩社員と一緒に学んでいくため安心して働ける職場です。私たちと一緒に地元へ貢献したい方を募集しています。

営業部 主任
大西 功祐さん

採用に関するお問い合わせ先

0859-29-5321

公式サイトはこちら



1日のスケジュール



岩敷さんのスケジュール

日々進化する測量技術。岩敷さんは、最新の技術を用いた測量データを収集・検証している。

測量部
岩敷 亮さん
2023年入社

8:15 出勤、メールチェック・処理

9:00 発注者と打ち合わせ

10:30 現場確認、計測準備
午前中は、社内で事務的な作業や打ち合わせを終えてから測量の現場へ移動。現場に到着してからは、まずは現地を確認して、午後の計測に向けて準備する。

12:00 昼食

13:00 ドローンによる3Dデータの計測
カメラやレーザー装置を搭載したドローンを利用して、上空から測量しデータを収集。人が立ち入れない場所や、危険な場所でも計測が行えるなどのメリットがある。

16:00 帰社、計測データの整理・解析

17:00 翌日の作業工程の確認

17:15 退勤



13:00
ドローンで測量。従来の目視の方法と比べて短時間で計測できる



16:00
計測したデータを整理・解析して3Dモデルが作成される



榎崎さんのスケジュール

大学院で地質を学び、ゼロから技術を身に付け成長中の榎崎さん。BIM/CIMによる3次元化に挑戦する。

設計部
榎崎 真一郎さん
2023年入社

8:15 出勤、メールチェック・処理

8:30 タスク確認

8:45 現地踏査or設計図面・資料等作成
社内で設計図面や資料などを作成することもあれば、実際に現地に向いて、地形や周辺環境などの調査を行うことも。現地踏査の場合は一日出かける。

12:00 昼食

13:00 現地踏査or設計図面・資料等作成

15:00 3次元モデル作成
近年、建設業界で注目される最新技術のBIM/CIM。単なる3次元の設計図ではなく、調査や測量、設計などのさまざまな情報を3次元モデルに統合し、可視化する。

17:00 タスク整理

17:15 退勤



10:00
上司のサポートを受けながら、知識や技術を磨いていく



14:00
職場のメンバーと打ち合わせ。明るい雰囲気でお話が進む

ヨナゴ技研を支える仲間たち!

3D測量などの新技術を最大限に活用したい

測量部のリーダー的存在で、3D推進チームの井田さんと、同じくチームの一員で主にドローンなどを利用した3D測量とそのデータの取りまとめを一任されている岩敷さん。チームは測量部と設計部から、新技術の活用で意欲的でスキルのある人材で構成されている。「3D測量は視認性の向上、プレゼン能力の向上、作業効率化などが期待でき、近年は新技術の開発が加速しています」と井田さん。新技術を社内で活用できるか検討するのが岩敷さんだ。実は、岩敷さんは以前設計部で働いていたが、一度退

社してSEに転身。その後、井田さんの誘いで再入社して測量部に加わった。「岩敷くんはスキルがあるし、前向きで努力を厭わない。的確な指摘をくれて、上下関係なく付き合える存在」と井田さんは信頼を寄せる。その言葉に岩敷さんも「井田さんはこれまでの豊富な経験から多面的な回答をくれます。意見を気兼ねなく言えて、それに対して納得いくまで回答をくれる」と応える。新技術を最大限に活かし、最適な提案につなげる日を目指し、今日も熱く意見を交わしている。



測量部
井田 悟さん 岩敷 亮さん
1993年入社 2023年入社

個々の挑戦を応援。努力して身に付けたスキルは必ず役に立つ!

設計部は16名中5名が女性社員。その5名のうちのふたりが松田さんと新村さんだ。「明るい雰囲気や男女問わず誰にでも相談ができる職場。ちょっとしたことで話がしやすいことが魅力です」と新村さん。2人が担当しているのは設計書の工事発注をする際の数量計算や、設計者の補助業務だ。確認する図面は、道路や橋梁など同社で扱う案件すべて。「図面を読み取り、積み上げていく作業は細かくて気を使いますが、全体像が見えた時に達成感があります」と松田さんはやりがい語る。もちろん、最初

からあらゆる分野の図面をスムーズに読み取れるわけではない。「経験が少ない分野はどうしても苦手意識を持ってしまいます。積極的にチャレンジして成長につなげたいです」と新村さんは意欲を見せる。松田さんをはじめとする先輩社員は、後輩が失敗しても乗り越えられるようにサポートし、チャレンジできる環境づくりを行う。松田さんは「努力して身に付けたスキルは必ず役に立ちます。個々のスキルアップを応援し、チームの成長につなげたいです」と温かく見守る。



設計部
新村 幸穂さん 松田 葉子さん
2020年入社 2010年入社

業務効率化の先に、突出した得意分野を生み出したい

新技術を積極的に導入し、負担軽減や業務効率化を目指す3D推進チーム。測量部と設計部でチームを組み、連携しながら進めているプロジェクトだ。小川さんはそのリーダーとして、通常の道路や砂防、林道などの設計業務と並行し、新技術の導入や検証に取り組んでいる。そんな小川さんを「リーダーシップがあって頼もしい上司。ソフト操作の面でも抜きん出ています」と尊敬する榎崎さんは、建設の各段階のデータを仮想空間上の3次元モデルに紐づけて展開するBIM/CIMの活用に取り組む。「榎崎

くんは、先進技術への理解度が高く、頼りになります。成長が楽しみな存在」と小川さんは目を細める。新技術を導入する際の壁は、ソフトや機材などの高額な設備投資。次々と新しい技術が登場する中で、本当に会社が必要とする技術なのか情報収集は欠かせない。「目標に沿って段階的に導入を進めていきますが、最終的には“この分野ならヨナゴ技研”とどこにも負けない突出した形をつくるのがチームの目標です」と小川さんは意気込む。新しい挑戦に、チームは活気に満ちている。



3D推進チーム
榎崎 真一郎さん 小川 豊さん
2023年入社 2014年入社